

組合士

アラカルト

江別工業団地協同組合事務局長

むらた きよつか
村田 京華さん

組合、事務局の5年後10年後を見据えて「今」をサポート

江別工業団地協同組合事務局長の村田京華さんは、組合士としての経験を積み重ねる中で、「組合士は、組合運営において多岐に渡る知識を有し、正しい方向に導く手助けができる専門職」と自負している。

異業種組合の主力事業は電力事業

当組合の設立は昭和49年、現在の組合員数は134社。大半は製造業だが、札幌市まで30分、千歳空港まで40分で行く高速道路に近いという立地から、近年は流通業等の組合員加入も増え、異業種集団となっている。

組合事業の柱は組合員全員が利用できる電力事業（共同受電事業）で、年間7億8000万円を売上げ、粗利約20%という主力事業である。この粗利を利用して、教育情報事業や安全衛生事業、福利厚生事業、広報事業、簡易郵便局委託事業など、組合員にとって便利で、必要な事業を行っている。電力事業では事務局に有資格者（第2種電気主任技術者）3名を置き、団地内に構える変電所施設設備と組合員各社の設備のメンテナンスを行っている。組合員にとっては、地域電力会社よりも安価で電気を購入できる上に、電気主任技術者を組合で兼任することでコストが節減できることが大きなメリッ

トとなっている。

事務局は八面六臂で活躍中

事務局は、専務理事、総務部3名、電力部4名で構成している。村田さんも所属する総務部は電力事業以外のすべての業務を担い、月に5回以上の定例行事と会議に加え、新規事業も飛び込んでくる業務ぶり。日々の業務をきちんとこなすために年間スケジュールを作成し、毎年行う事業には手順書を作成するなど心を配っている。さらに、毎月と年4回発行する2種類の広報誌を発行し、ブログや映像プログラムも随時、更新している。これらに必要なスキルは、時間外に、総務の3人が自発的に勉強会を作り、協力を得ている映像制作会社やHP作成会社に出かけ、いろいろなことを教わっているという。

少ない人数で仕事をするだけに、事務局の人材育成にも余念がない。理事長はじめ役員も「5年10年先に何が必要になるかを考え、必要な人材の確保や教育を熱心に後押ししてくれている」そうだ。

組合士は「今」

村田さんが現在に至るまでには、組合士の資格取得が非常に大きな意味を持つ。資格取得は平成11年。退任を控えてい

た当時の専務理事が「これからは事務局に専門職が必要だから、本気で仕事を続けていくのなら組合士の資格を取れ」と後押ししてくれたことがきっかけだった。試験は「過去問を分析し、山を張って受験したら合格した」が、組合士のカバーする知識、仕事内容は非常に幅広い。「だから資格取得はきっかけ。組合士になるということは、資格を取得してから本格的に始まる。実際、自分でも組合士として胸を張って仕事に当たれるようになるには5年10年かかった」と村田さんは言う。

村田さんの組合士取得は、組合運営が赤字から黒字に転換する時期と重なった。そのため、事業運営に対する専門的な知識と組合士としての意見を役員からも求められるようになり、その一つひとつに熱心に取り組み、答えていく中で、役員からも認められるようになった。意見聞き入れてもらえるようになった。「組合士という資格を手に入れたことで、専門知識を持つ組合運営の専門職として女性でも認めてもらえるようになったと思

組合士は組合運営のパイロット

「日々経済状況が変わっていく中で、組合にとって組合士の役割はとて

い」と思う村田さんは、事務局職員に組合士の取得を強く求めている。現在は、総務部の女性職員2人の勉強をサポートすると共に、電力部の男性4名にも「組合を理解してもらおうのいい機会」と、組合士の勉強を始めてもらっているという。

今、村田さんが組合士として考えることは主力となる電力事業のほかに、次の柱となるような事業は何か、特に、「企業規模がちがう組合員の皆さんに必要とされる事業は何か？」ということである。当組合の組合員は、業種が多岐にわたる上、規模も千差万別。そういう中で「電力事業という、組合員に必要不可欠の事業だけに頼っているのは将来が必ずしも安泰ではない」と、役員・事務局長とも「5年10年先の変化をにらんで今を考え

ることが共通の意識となっている。村田さんは関係諸団体や他の組合・組合士との交流も盛んだが、その中で「必要とされる事業が希薄になると、組合の一体感・求心力も希薄になり、メリットばかりを求めようになる」という傾向を感じているという。当組合が現在の一体感を将来も持ち続けるにはどうすればいいのか。それが目下の最大のテーマである。

